

## 5年 国語科研究授業のまとめ（6月1日）

### 1 単元名及び単元の目標

新聞記事を読み比べよう（5/6本時）

- ◎ 記事と写真との関係に注意しながら新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。

### 2 本研究授業の提案について

説明文における書き手の意図に気付かせるための手だてとして、以下の二つを提案した。

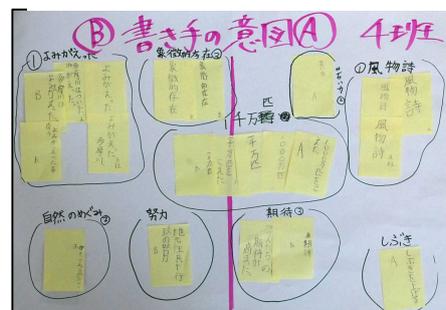
- (1) ワークシートを活用し、二つの新聞記事の内容を整理することで（見出し、リード、第1～4段落、写真・キャプション）、それぞれの書き手の工夫に一目で気付くことができるようにした。さらにワークシートの内容を拡大したものを教室内に掲示し、学びの履歴を確認することができるよう配慮した。（資料1参照）児童は、ワークシートから各項目を関連付けて考えることができるようになり、記事の要旨と写真との関係、写真のアップとロングの効果等に気付くことができた。



（資料1）拡大ワークシート

また、その工夫がより明確に意図を伝えるためであることにも気付くことができた。以上のことから、ワークシートを活用し、内容を整理して児童に提示することは有効であった。

- (2) 書き手の意図を読み取る場面では、付箋を利用して考えをまとめる手だてを取り入れた。まず既習内容から重要だと思われる言葉を事前に付箋に書き出し、グループ活動で似ている言葉同士を分類させた。次に分類した言葉を重要度の高いほうから三つ選ばせることで、より書き手の意図が反映された言葉に気付かせるようにした。最後に選んだ言葉をグループごとに発表させ、全体で共有した後、個人に戻って書き手の意図についてノートに書かせた。付箋に書き出して分類したことで重要語句を洗い出し、さらに重要度を考えさせることで、より意図に近い言葉は何かを考えることができた。また、この手法は本単元に入ってから各時間で行っており、単元の終末である本時では児童の習熟度も高まり、円滑に活動を進めることができた。（資料2参照）



（資料2）付箋の活用

しかし、分類、集約する段階で「同じもの」「似ているもの」という視点を与えてしまっていたために、「他とは違うもの」という逆の視点から考えさせることができなかった。今後は付箋を使って集約させる際、共通点のみを集約する活動ではなく、ねらいに合った視点を提示する必要がある。

### 3 本研究授業の授業技術課題について

書き手の意図を考えさせるために、発問の精選を行った。付箋を分類する作業等の際に行う発問をあらかじめ用意し、明確に指示することで、混乱なくグループや個人の作業に入っていくことができた。また、終末に書き手の意図を書かせる場面では、キーワード作文の手法も示しながら発問することで、どの児童にとっても自分の意見を書くための支援を行うことができた。

### 4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえ、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・ 意見を集約したり広げたりする際に児童に与える発問の精選。
- ・ 学級全体で考えを交流させることで再考を促すような授業展開の工夫。